
サラリーマン

藤原あきら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サラリーマン

【Nコード】

N4476P

【作者名】

藤原あきら

【あらすじ】

ごくごく平凡な会社員の鈴木、彼には秘密があった……。

エレベーターの扉が開いた。
誰も乗っている者はいない。

彼はそれを確認すると、エレベーターへと足を踏み入れた。
扉が閉まると彼は、ボタンを押さずに、スーツの内ポケットからIDカードを取り出した。

それをボタンが並んでいる横の溝に滑らせる。
するとエレベーターは静かに動き出した。

表示にはない地下へと、彼を乗せた箱は下りていく。

彼には秘密があつた……。

友人や家族、恋人にも言えない秘密だ。

勿論、同じ会社に勤める他の社員にもだ。

彼を乗せたエレベーターが目的の階へ着いた。

扉が開くとそこには、普通の会社と何ら変わらない風景が広がっている。

彼はいつもの様に、自分の仕事場へと歩みを進めた。

「おはようございます」

彼が足を踏み入れた部屋には『正義の味方課』

……とプレートが掲げられている。

「おはよう、鈴木君」

「おはようございます！ 社長！」

社長と呼ばれた男は、指を振って鈴木と言葉を否定した。

「ここでは社長ではなく」

鈴木に先を促す。

「あつ、すいません、指令！」

その言葉に満足そうに頷いた指令は、満面の笑みを見せる。

「今日も平和のために頑張ろう！」

「はい！」

熱い握手を交わす二人。

他には人の姿が見えない。

やはり部屋の中も、デスクが並んでいるだけで普通の会社と変わらない。

「指令、他のみんなは？」

「ああ、今日は営業だ」

指令はホワイトボードの予定を指差した。

ホワイトボードには、戦隊ヒーローの名前や、仮面ライダーの名前などが並んでいる。

「後楽園遊園地で僕と握手！ってな」

指令はポーズ付きで言った。いちいち熱い男なのだ。

「だからもしもの時は……」

いやに神妙な面持ちで指令がいう……。

鈴木も神妙な面持ちで指令に続ける……。

「分かっています！ その時は任せて下さい！」

「頼んだぞ、鈴木君……いや、サラリーマン！」

「はい！ 指令！」

またしても熱い握手を交わす二人。

その時だった……部屋中に鳴り響くアラーム音。

握手をしたままの姿で顔を見合わせる二人。

「出勤だ！ サラリーマン！」

「ラジャー！！」

街はパニックに陥っていた。

逃げ回る人々。

その先には、全身黒タイツの悪の工作員達が、奇声をあげながら、人々に襲いかかっていた。

「オッホッホッホ！」

その中心には、ボンテージを身に纏った女幹部の姿があった。

「オッホッホッホ！ 恐怖するがよい、愚かな人間共よ！ この星は我らが頂く！」

女幹部は一人高い所で、逃げ惑う人々を見下ろして笑った。

その時だ。

何処からともなく聞こえる声が。

「そこまでだ！ 私が来たからにはお前達の好きにはさせないぞ！」

「誰だ！」

女幹部の怒号が響く。

「キィー！」

続いて工作員の悲鳴。

次々と倒されていく工作員達。

その先にいたのは。

「お前は……サラリーマン！」

サラリーマンと呼ばれた男は、スーツ姿の何処から見ても普通のサラリーマンである。

しかし、工作員と戦う姿は正しく、スーツに身を包んだ正義の戦士である。

あっという間に、工作員を倒したサラリーマンは、女幹部と対峙した。

「くそっ！ こうなったら私が直々に倒してくれるわ！」

女幹部はムチを取り出すと、ビシリと地面に叩きつけた。
交戦する二人。

……すると夕方のチャイムが、街に鳴り響いた。

その時、女幹部に僅かな隙がうまれた。

サラリーマンは、その隙を見逃さなかった。「名刺カッターアッ！」
サラリーマンの技のひとつである。

無数の名刺が女幹部に襲いかかる。
巧みに避ける女幹部。

しかし、名刺のひとつが、女幹部の腕を切り裂いた。

「くっ！ 今日はこのくらいで勘弁してやる！ 覚えている！」

女幹部は立ち去った。

こうして地球に平和が戻ったのであった。

「あつもしもし、指令、任務完了しました！ はい、お先に失礼します」

「ただいまあ」

「あつ、お帰りなさい。 今、ご飯作ってるからちよつと待っててね」

正義の味方サラリーマンが、ただの鈴木に戻る時間。
恋人の真理子と過ごす時間。

「……？ 真理子、どうしたんだ？ その腕……」鈴木は、真理子の腕に包帯が巻かれているのに気が付いた。

「あつ、これは……ちよつとね」

（後書き）

拙い作品ですが、最後まで読んでいただきありがとうございます m

（――） m

感想などいただけると大変嬉しいです（

）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4476p/>

サラリーマン

2010年12月12日05時54分発行